

創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.5〉

〈東岐波③ 小学校歌〉

東岐波小（小野晃子校長）は1872（明治5）年8月、学制発布による花園小松原に公立校として設立され、今年度150年の節目を迎えた市内で最も古い小学校の一つ。校歌は戦後の新しい民主主義の下、1948（昭和23）年に制定された。

校歌

一 東岐波のまん中の
明るい丘の学び舎で
日の山のぼる陽のように
元気で勉強しています

二 植松川の川下の
みどりの風に吹かれては
波雁が浜の波のように
楽しく運動しています

三 心の光身の力
みがききたえて行くわれら
丸尾の浦の舟のように
あらしも波も乗りきろう



東岐波小学校

日の山に作詞家招き制作

97年、二部合唱に変更

それより前に校歌のよなものは存在しなかった。同校120年誌には開校記念日の歌が掲載されているが、歌い継がれているものではなかった。戦後、職員会議では新しい校風や教育方針を活発に議論。新時代に即した教育へと転換していく中で、47〜52年に在職した13代校長の岡本能亮さんが、県内の多数の学校歌を作っていた作詞家の白上貞利さんを日の山に誘い、山頂から一望した様子が歌詞にしたためられたという言い伝えが残る。

詞には日の山、植松川、波雁ヶ浜、丸尾の浦といった地区を象徴する場所が登場する。自然豊かな地で生きる人々の暮らしの様子に、これからの生きる子どもたちへの願いを込めた。

98年3月までの6年間、音楽を教えた中村明美さんが、当時の佐々木卓土校長と山口市の作曲家、田中健二さんを訪ね、時代に似合うようにと編曲を依頼。97年に二部合唱へと変えた。「校歌は学校のシンボル」と中村さん。6月には久しぶりに母校を訪問して「1番は明るく、2番はなめらかに、3番は力強く」と6年生に歌い方を指導した。

小野校長は「保護者や地域の人にも折に触れて校歌の話をする。それは子どもの姿を校歌に重ねてほしいから。そしてこれからは共に見守りたい」と語る。さらに「校歌は、大人になっても歌える不思議な力を持つ。年齢を重ねることに意味を深く実感し、古里を懐かしく思い出す。未永く伝統が受け継がれていてほしい」と願っている。